

R2年度教室配属インターシッ 皮膚科学教室紹介



教授からのメッセージ
皮膚に起きる現象を「科学の言葉」で理解する。その中に驚くべき生命現象が見えてきます。

皮膚科のメンバー
森実 真(もりざね しん)教授
ほか医局員18名

研究内容紹介

①アトピー性皮膚炎の研究

アトピー性皮膚炎は慢性的な湿疹を主体とするアレルギー性皮膚疾患です。病態としては、アレルギー性の炎症反応と表皮バリア機能異常を二大要素としますが、発症機序は未だ不明な点が多いです。当科では、表皮角化細胞におけるTh2サイトカインの働きやセリンプロテアーゼの制御機構について、培養細胞、実験動物、臨床検体などを用いて多面的な病態解析を行っています。

②乾癬の研究

乾癬は代表的な炎症性角化症です。乾癬に対するTNF- α やIL-17といった炎症性サイトカインの関与が明らかになり、生物学的製剤の臨床応用がすすんでいます。私達は表皮の炎症に関わるサイトカイン、セリンプロテアーゼインヒビターなどに注目し、さらなる乾癬の病態解明を目指して日々研究しています。

③ウイルス関連疾患の研究

Epstein-Barrウイルスは初感染では伝染性単核症を起こすことがよく知られていますが、皮膚科領域では種痘様水疱症という小児の稀な光線過敏症の原因であることをわれわれがつきとめました。教室ではEBウイルスの感染細胞(γ DT細胞)、潜伏感染、再活性化や皮膚病変への感染細胞の遊走機序や重症化因子について研究しています。その他乳頭腫ウイルス、単純ヘルペス/水痘帯状疱疹ウイルスについても研究しています。

④遺伝性皮膚疾患の研究

隆起性皮膚線維肉腫という皮膚腫瘍では17番染色体の1型コラーゲンと22番染色体の血小板由来増殖因子との間で高頻度に融合遺伝子を生ずることが知られており、隆起性皮膚線維肉腫の確定診断において重要な検査となっております。教室ではReverse Transcription PCRにて融合遺伝子を調べ、臨床像との比較を行っております。遺伝子診断・研究において欠かせない手法となっているPCRについて学ぶことができます。

④皮膚リンパ腫関連

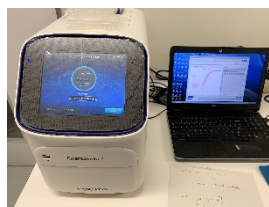
皮膚リンパ腫は稀な皮膚悪性腫瘍ですが、岡大皮膚科には中四国から多くの症例が集まっています。Cell adhesion molecule 1とセザリ-症候群の関連や、皮膚のフローサイトメリーの皮膚リンパ腫診断における有用性など、基礎研究だけでなく将来的に臨床にも応用できるような研究をしています。

⑥皮膚におけるオートファジー関与

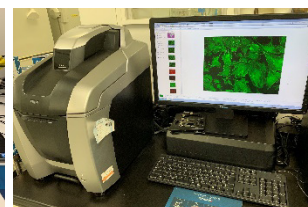
昨今、オートファジーの疾患関与について研究が進められる一方で、皮膚疾患については恒常的にオートファジーが起こっているにも関わらず殆ど解明されていません。栄養障害性紅斑という疾患概念の皮膚疾患では亜鉛やアミノ酸などの複合栄養素欠乏の背景をもとに皮膚角化細胞においてオートファジーが亢進している事が判明し、皮膚病変の発症機序について研究しています。

教室配属で学ぶ実験方法

細胞培養法、小動物の飼育法、顕微鏡の使い方、免疫染色法、FACS法、ELISA法、RT-PCR法、ウエスタンブロット法、液体クロマト法など



RT-PCRシステム



蛍光顕微鏡(PC連結)



令和元年4月 医局写真

皮膚科からのメッセージ

医局員は元気いっぱい、アットホームで親しみやすいと自負しています。スタッフも優しい先生ばかりですので(指導は厳しいこともありますが)ぜひ、皮膚科で一緒に実験しましょう。定員は2名です。

